

学園点描

日本の季節は四季から春・夏・酷暑・秋・冬と五季になるとテレビの気象予報士が言っていました。

《H学園》

NO.12 R7. 9. 3

担当：校長

8月3日（日）Yぎん県民ホールを会場に「第64回県吹奏楽コンクール」が開催されました。本校吹奏楽部は、小編成の部に出場し、自由曲『大いなる約束の地 ～チンギス・ハーン～』を見事に演奏しました。演奏を聴いていると、大平原をチンギス・ハーンが馬に乗って駆け抜ける壮大な情景が目に浮かぶようでした。その結果、本校は金賞を受賞しました。

9月1日に開催されたM上地区「少年の主張大会」において、本校9年生のW・Hさんが出場しました。演題は「父の目」で、見事 優良賞 を受賞し、次のM北大会へ出場することとなりました。

発表では、まっすぐに自分を見つめる父の目から伝わってくる温かさと愛情を表現しました。Hさんの思いのこもった堂々とした発表の裏には、お家や早朝の体育館での練習の成果がありました。

逆転しない正しさ

子どもがまだ小さかった頃の思い出を一つ紹介します。東京出張から戻り、最寄り駅に着いた夜のことでした。タクシーがつかまらず、やむなく歩いて帰る途中、突然の大雨に見舞われました。傘もなく、濡れて帰るしかないと覚悟したときのことです。しばらく歩くと、前方にレインコート姿で長い傘を手にした子どもの影が見えました。子どもとわたしだけの生活を送っていました。だからわが子は留守番しているはずでした。呼びかけると振り返り、「お父さんが困っていると思ったから」と笑顔で傘を差し出してくれます。名前を呼びながら駆け寄ったあの瞬間、子どもに助けられてしまう力のない自分を悔いたものです。

朝のNHKでは、アンパンマンの作者・やなせたかしさん夫妻をモデルにしたドラマが放映されています。やなせさんは戦争体験を経て、「困っている人を助けるヒーロー」を描きました。それまでのヒーローは怪獣を悪者と決めつけて力で倒す姿がほとんどでした。でも怪獣の側に立ったら、逆転してヒーローの方が悪者になって見えるかもしれません。自分側から見ただけで悪者を決めつける正義とは何かをアンパンマンは問いかけているようです。



2学期の始業式で、児童・生徒たちにそのアンパンマンの話をしました。

前期・中期・後期ブロックごとに、わたしの話を通じて考えてほしいことを伝えました。前期ブロック（1～4年生）の児童には「自分の心の中にいてほしいヒーローについて」、中期ブロック（5～7年生）の児童生徒には「あきらめそうになる自分を応援する言葉について」、後期ブロック（7・8年生）の生徒には「仲間と支えあいながら決して少数の人を切り捨てない民主主義について」です。

わたしの話の後、前期ブロックの子どもたちには、プリントに書いて提出してくれるように求めました。校長室には、たくさんの「自分の心の中にいてほしいヒーロー」が集まりました。「泣いている友だちをなぐさめるヒーロー」「ひとりぼっちの子に声をかけるヒーロー」「宿題をがんばる子を応援するヒーロー」など、子どもたちは特別な力を誇るヒーローではなく、身近な優しさを大切にしたヒーロー像を描いていました。

たとえば1年生のM・Nさんは「マモルン」というヒーローを考えてくれました。このヒーローは“友だちとけんかをしたときに仲直りさせてくれる”力を持っているそうです。友だちとの仲直りに困っている人を助けてくれるヒーロー。



子どもの心が求めているヒーローは、決して万能ではない、弱さを理解してくれるヒーローが多いようです。強面に正しさを主張するヒーローは、カッコいいけど、毎週怪獣と闘わなければならない儚さがどこかにあります。

思い返せばあの日、子どもに助けられ、感謝するしかない、ずぶ濡れの姿だったとしても、子どもにとっては1番うれしいヒーローだったのかもしれない。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。